

おおたUDライフ

補助犬について理解しよう！！

補助犬

補助犬とは、身体障がい者の社会参加を助け、自立を支援するために訓練された犬のことをいいます。

補助犬には「もうどうけん盲導犬」「ちょうどうけん聴導犬」「かいじょけん介助犬」の3種類があります。それぞれ役割は異なりますが、身体障がい者のパートナーとして活躍しています。

盲導犬

目が見えない、見えにくい人をサポートします。障害物を避けたり、段差や曲がり角を教えたりします。胴体にハーネスと呼ばれる黄色や白の胴輪を付けているのが特徴です。



聴導犬

音が聞こえない、聞こえづらい人に自動車のクラクションや玄関のチャイム、非常ベルなど、必要な音を聞き分けて知らせます。外出時には聴導犬と書かれた胴着を付けています。



介助犬

手や足が不自由な人に、物を拾ったり、ドアの開閉をしたり、日常生活の動作をサポートします。外出時には介助犬と書かれた胴着を付けています。



様々な方が、UDの考え方を理解し、誰もが暮らしやすい大田区をつくるため、ユニバーサルデザインや心のバリアフリーについて紹介しています。今回のUDライフでは補助犬について紹介します。

補助犬実働頭数と種類

令和5年10月現在、都内では盲導犬97頭、聴導犬13頭、介助犬13頭が活動しています。

また、補助犬は盲導犬・介助犬の犬種はラブラドル・レトリバーが大半を占めますが、聴導犬は、さまざまな犬種が活躍しています。



街で補助犬を見かけたら

街に出ている補助犬は仕事のため、常に周りの様子や同伴者の指示に意識を向けています。

気を引くような行為をすると補助犬の集中力が途切れたり、混乱したりして、事故につながることがあります。そのため、補助犬には、以下の行為はしないようにしましょう。



©大田区

- ・話しかける。
- ・じっと見つめる。
- ・食べ物を与える。
- ・補助犬をなでたり、ハーネスを触る。
- ・自分のペットと挨拶させようと近づく。

もし、補助犬の同伴者が困っているようでしたら、同伴者へお声がけをお願いします。

豆知識

1957年に大田区で日本第1号の盲導犬が誕生しました。



©大田区

補助犬の施設への受け入れについて

身体障害者補助犬法、障害者差別解消法によって補助犬を同伴して施設に入れるようになっていました。

- ・国、地方公共団体が管理する施設
- ・公共交通機関
- ・デパートや飲食店、病院などの民間施設 等

身体障害者補助犬法によって、補助犬の同伴者は

- ・適切な行動が取れるための訓練
- ・ブラッシングやシャンプーなどによる清潔な体の維持
- ・定期的な予防接種や検診

を補助犬に行っています。

このように、補助犬の衛生や行動の管理は徹底して行われていますので、補助犬の施設への受け入れにご理解をお願いします。

●ほじょ犬マーク

補助犬の同伴の受け入れについて、施設を利用している人への啓発を目的としています。施設や飲食店の入口に貼っています。

